一の宮巡拝

一の宮巡拝会　発行人　関口 行弘
事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
電話：072-791-5158　FAX：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

尾張之国一の宮

一の宮巡拝を始めて10数年が経つ。今年は一の宮巡拝会結成10周年の節目に当たり、尾張之国一の宮真清田神社のご協力により「第3回尾張一の宮シンポジウム」を当神社で開催させていただいた。また、大神神社にも正式参拝をさせていただき宮司様はじめ皆様のご好意に厚く感謝を申し上げる次第です。さて、近年一の宮の研究書やガイドブックが書店に並ぶようになり、巡拝を始める人たちも徐々に増加。交通の不便な一の宮へも団体客の参拝者がお参りする光景を目にすることもある。私が巡拝を始めた当初は「一の宮神社を巡拝している」と言えば「尾張一の宮へお参りされるのですか」と訝しげに問われることがたびたびあった。平成3年7月に一の宮を地名とする19の商工会議所が尾張市に集い「一宮サミット」を開催した。それがきっかけとなり「全国一の宮会」が結成され次いで「一の宮巡拝会」が結成されたのである。

尾張国一の宮・真清田神社

尾張国一の宮・大神神社

尾張之国一の宮は先の2社がある。真清田神社は伊勢湾に注ぐ木曽川流域に位置し延喜式には名神大社として真墨田神社で記載されている。木曽川流域に沿った灌漑用水による水田地帯として古くから河川交通の重要な場であった。祭神は天火明命（あめのほあかりのみこと）で尾張の国を開拓し尾張氏の祖神になった。祭神の母神として万幡豊秋津師比売命を本殿脇に、服織神社（はとりじんじゃ）として織物の守護神として祀ってある。毎年7月末に七夕祭りが行われる。仙台市、平塚市と並んで「日本三大七夕祭」のひとつである。

大神神社は大和之国一の宮大神神社と関係があり、祭神も同じ大物主神。古くはこの地を美和といい、大神神社の創建は不明である。1584年小牧・長久手の戦いのきっかけとなった浅井田宮丸の乱で本殿などが焼失。当時の神域は八町余りの広大なものであった。

一の宮巡拝会代表世話人　関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会本部事務局
〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮（有）内
電話：072-791-5158　ファックス：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局
〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12（株）アドワーク内
電話：03-5823-3901　ファックス：03-3865-2135
E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp

10周年記念交流会と尾張一の宮シンポジウムを終えて

一の宮巡拝会も10年という節目の年が過ぎました。初代の代表世話人、故入江孝一郎先生が即身仏のような痩せ細った身体に私財を投げ打って始められ、その最後は鬼神の形相で、代表世話人として出来る限りの事業を完遂しようと、個人的には何冊目かの御朱印帳を何とか完拝しようと国内を奔走され、志し半ばで御逝去された。

その事業は、二代目代表世話人の関口行弘に引き継がれ、初代の遺り残した事業を消化し、新たな展開の基に巡拝会を引っ張って来た。その御朱印帳は、引き続き御子息である光さんの手に渡り、父の願いを叶えようと御自身の御朱印帳と共に記帳されている。

思い起こせば、初代の意思を継ぎ無我夢中で成り行きのまま過ぎた10年であったが、会員数も増して、会員為らずとも一の宮神社を巡拝する人の数は着実に増えている。その10年の記念とした交流会と尾張一の宮シンポジウムは、神職や会員の皆様の御協力により無事に終える事ができた。

6月20日の曇よりとした空の下、当日参加した会員60名程が名古屋駅に集まり、先ずはバスで熱田神宮まで正式参拝にと向かう。創祀千九百年の記念造営を迎えられている熱田神宮では、二度と立ち入ることの出来ない御禁足の地に足跡を踏み入れ貴重な参拝をすることが出来た。蒼々とした熱田の森の中を、権禰宜さんの御案内で草薙の剣等の御説明を受け、一同が感激しながら周りました。その後は、田県神社、尾張二の宮の大縣神社と参拝し、木曽川河畔の国宝犬山城の真下に位置する迎汎楼に泊まる。

夜は大懇親会となり、壱岐の有馬様を始めとする長崎県の皆様、新潟の川勝様老夫婦、広島の平山様、何時も参加され常連となられている東京の土屋御夫婦と知人の方達、大阪の本多様はじめ会員諸氏と賑やかな一時を過ごしました。

翌21日は、そぼ降る小雨の中をバスは真清田神社に向かい正式参拝を行った。拝殿では、上野友熙様の君が代斉唱による太く響き渡る声が会員の感動を呼び、一層の気を引き締めることとなった。

続いて小雨の中を、もう一つの尾張一の宮神社である大神神社までバスが走る。大神神社では、山田照磨宮司と社家の御家族の皆様の暖かい歓迎を受けた。大和の国から移り住んできた三輪族の拠り代で在ったと思われるが、今では地元でも一の宮としての存在すら忘れ去られているが、一宮市大和町、海部郡美和町等の地名が示すように相当の範囲に三輪族の存在が及んだと偲ばれる。山田社家の御家族の皆様の御見送りを受け、バスは再び真清田神社へ向かい、昼食となる。

午後からは、いよいよ本題となる「尾張一の宮シンポジウム・神さまって何?—もっと身近に神さまを—」、の開始前に上野様のシンセサイザーの演奏と張りのある歌声が響き渡り、シンポジウムを盛り上げることとなった。会場には、飯田清春宮司の御配慮で、氏子さん達の御参加もあり百人を超える多くの参加者が集まっていただいた。池内了先生の講話が始まり科学の目を通しての神様のお話が続き、一般にはなかなか理解を得がたいところもありましたが、皆様が熱心に聴講され席を立つ者も少なく、壮大な宇宙論にまで講話は及んだ。20分の休憩の間には、後席に設けられた一の宮関連の写真・絵画を見入る方、出版物を買い求める方の列が目についた。

その後、第二部としてディスカッションが始まった。飯田清春宮司様、池内了講師様、斎藤盛之先生、関口代表世話人、ダスティン・キッド世話人の5名のパネラーによるディスカッションはとても盛り上がり、多くの聴衆がうなずく姿があった。

シンポジウムは定刻に終り、空からは眩しいくらいに日が射していた。

終えてからはホッとしましたが、まずは成功したのではないかなと自賛した。特に、飯田清春宮司様には、お話を上手にまとめて伝える貴重な役割をして頂いた。会場をお借りした真清田神社の神職の皆様には、格別の御配慮をいただき感謝申し上げます。大神神社の御家族の皆様、地元の河合様や大阪の平野様とお仲間、皆様の暖かい支えにより10年が終り、新たな10年が始まりました。

今後も、神職の皆様のお力添えを得ながら、多くの会員が集まるような魅力ある一の宮巡拝会を築きたいと思います。

中部ブロック世話人　大谷武司

写真左／大神神社社頭にて　右上／真清田神社拝殿にて
右下／シンポジウム会場

小説「全國一の宮」調元祖

橘　三　喜（第三十八回）

郡　順史・作　関口　之洋・画

三喜は立止って三人の男が歩み寄って来るのを待った。

背後に従いてきていた平之進は、つつと歩をすすめ三喜の左側に並んで立った。万一をおもんばかって三喜の身を護るつもりであろう。

その顛沛（てんぱい）の間（かん）にも三喜は三人の様子から何者であろうかと、正体を読みとろうとしていた。

彼が國許に居たのは、少年時代をふくめて僅な年月であり、青年期以降はほとんど江戸詰や諸國遊巡であった。従って國許の中士以上の士百八十名、同心足軽の士二百九十余人、そして部屋住みの士、中間小者三百余人か、そのすべての家臣たちの名前と面相を知っているわけではない。

が、それでも國許に戻った際は、狭い藩内ゆえ当然の如く挨拶を交すので、おぼろであっても何となく記憶の底に横たわっている。

三人はいずれもそれに該当しない。つまり藩に仕えている人間ではないのだ。と言って他國の人物でもないようだ。

何者か。刺客か……。

三喜は不意討ちに備えて、即座に抜刀応戦出来るように左足を軽く引き、彼等との声を発する距離を待った。

三人は一間ほどの距離をへだてて、三喜の前に立った。

ともに何故か地味な素袷に裁着（たっつけ）をはいている。そして刀は一本。この服装から見て武士ではない。と言って無頼の徒とも見えない。年齢はいずれも二十五、六か、頑健な体格をしている。

―― 一体何者か。

三喜には判断がつかなかった。それで、

「身に何かご用かな」

と、こちらから声をかけてみた。

すると真ん中の男が、

「橘三喜さまでございますね」

と問うてきた。ひどく緊張しているのか、声にふるえがあった。

三喜は返事をしなかった。

ひとに姓名身分を尋ねる場合、まず自分の身分や姓名を告げるのが礼である。それをしない相手には答える必要はないし、危険であるからだ。

「私は壱岐の寅助と申します。こちらは同じく壱岐の千太、そしてこっちは木の助と申します」

真ん中の男が、言葉丁寧に名乗り、頭を下げた。

「身は、橘三喜です。どうやら身に用事が有って待っていた様子。用件はいかなる事ですかな」

今度は三喜も答えた。

「橘様、壱岐に天手長男命様の神社を造ること、おやめになって戴けませんか」

寅助がずばりと切り出した。

「これは慮外な申し出、神社を造ると何か不都合があるのですかな」

「不都合があるんだ!!」

右隣りの木の助という若者が叫んだ。緊張のゆえか、声がひどく弾んでいる。そして更に加えた。

「俺たちは死ぬ氣で来たんだ!!」

この一言は、三喜の心の臓に突きささった。この男たちは、本当に自分たちの要求が入れられなかったら、三喜を殺し、自分たちも死ぬ氣で逢いに来たのかも知れぬ、と思わざるを得なかったのだ。

「死ぬ覚悟はわかった。しかし御造営を中止する理由をきかねば、身にもどうしようもない。御造営は身一人で行うものではないからのう。わけを話しなさい」

「はい、申し上げます」

言うと同時に寅助はいきなり大地に跪（ひざまず）いた。それを見てあとの二人も慌てて同様に跪いたのだった。

（つづく）

遷宮で結ぶ 人の輪 心の輪

――第六十二回神宮式年遷宮――

伊勢神宮・宇治橋初渡りと熱田神宮千九百年記念御造営特別参拝

造替中の宇治橋

作業中の匠

いよいよ伊勢神宮・宇治橋初渡りが近づいてまいりました。今回も紀伊国一の宮伊太祁曽神社・奥宮司様の計らいで熱田神宮の正式参拝と神宮両宮の御垣内参拝及び御神楽奉納、と十一月三日に式典後、宇治橋の初渡りを行いたいと思います。二十年に一度の機会ですので、巡拝会会員諸氏の参加を募ります。要項をご確認の上、十月十五日(木)までに東京事務局へメール・ファックス又は電話でお申込みください。折り返し申込書を送付いたします。

日　時　平成二十一年十一月二日(月)～三日(火)一泊二日

旅行代金　**お一人様　三万三千円**　神楽料・玉串料・食事付(朝一・昼二・夕一)・宴会費・添乗員同行

宿　泊　**旅荘 海の蝶**　三重県伊勢市二見町池の浦　電話(〇五九六)四四―一〇五〇

一日目　[貸切バス利用]　熱田神宮(正式参拝・昼食)→伊勢神宮外宮(正式参拝)→池の浦(海の蝶 宿泊)

二日目　ホテル→伊勢神宮内宮・宇治橋渡り初め(御神楽奉納・正式参拝・昼食)→おかげ横町→斎王歴史博物館・特別展→高速→名古屋駅解散

服　装　各神社では特別参拝いたします。男性は上着とネクタイをご持参願います。女性はそれに準じた服装でお願いします。

◆◆◆ 巡拝の声 ◆◆◆

平成二十一年四月に寄せていただいた原稿です。

一の宮巡拝会結成十周年記念に寄せて…「神の存在を信じたい…」

平成十五年に無事還暦を迎えられた私達、昭和三十三年卒業の同窓生記念旅行が平成十七年五月三日、一同に集い目的地である下総国一の宮・香取神宮を参拝しました。その時に御朱印帳がある事を知り、一念発起して全国一の宮巡りをしようと心に決めました。

四年後の平成二十一年四月現在で七十五社を参拝終了です。残す処、四国・九州・山陰地方のみとなりました。

話は変わりますが……

我家の平成二十年は正(まさ)しく「奇跡の年」としか言いようがありませんでした。と言いますのは、平成十九年五月二十七日、三男、浩治が出張先で頭が痛いと言いながら、川崎の地から自力運転で深谷日赤病院へ駆け込み、左頭部「脳梗塞」の開頭手術を行いました。その時に右側にも動脈瘤がある事が判り、体力の回復を待って十一月に開頭手術をしました。

あと一週間遅れていれば、右側動脈瘤も破裂(ぐろう)していたと先生の口から言われました。神を愚弄する医師の口から「神のお加護」があった事を聞かされて「ビックリ……」しているところです。三男は元気に回復し、現在就職して働いています。

巡拝会の益々の発展を祈ります。今後ともよろしくお願いします。

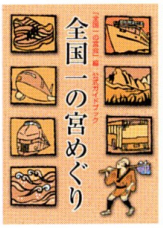
*神の存在を信じる信じないは各人の勝手です……

森武美

ご購入希望者は東京事務局まで

「全国一の宮会」編
公式ガイドブック

全国一の宮めぐり

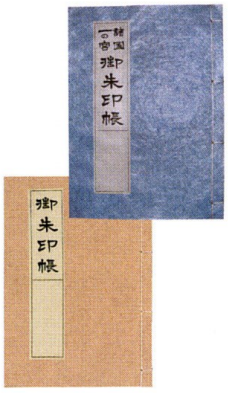


一の宮神社のみでの頒布で一般の書店では購入出来ません。諸国一の宮神社の社頭でお求めください。又は東京事務局へお問合せください。

頒価 一、〇〇〇円(送料別)

御朱印帳

四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙を使用、軽くて携帯に便利(二五〇 g)、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。



(青)／四国和紙・楮笹ヶ峰
一の宮・神社名・祭神名入り
定価7,000円(送料別)

(白茶)／四国和紙本文全て
白紙版定価6,000円(送料別)

◎全国一の宮巡拝のすすめ・改訂版(三百円)
◎全国一の宮参拝参考資料・初版(百五十円)　好評頒布中
◎全国一の宮神社所在地／全国一の宮鎮座地一覧表(会員無料配布)

一の宮巡拝会本部事務局　創房関宮(有)内
〒六六六―〇一一　兵庫県川西市大和東二―十三―十
電　話　〇七二―七九一―五一五八
FAX　〇七二―七九一―五一五九
E-mail : junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内
〒一一一―〇〇五五　東京都台東区三筋一―十二―十二
電　話　〇三―五八二三―三九〇一
FAX　〇三―三八六五―一一三五
E-mail : shio0369@crocus.ocn.ne.jp

●入会金及び会費について
一般維持会員　年会費　三〇〇〇円
賛助会員　一口　三〇〇〇円(何口でも可)
寄付金　お志し　※常時受け賜ります。薄謝謹呈

●会費等お振込み先
郵便振替(大阪)〇〇九九〇―五―八二五五